



◎道路改良及自動車燃料資源擁護に関する建議

本會は時局に鑑みる所があり日本交通協會、帝國自動車協會と相謀り、道路改良に関する件及自動車燃料資源擁護に関する件に就き十一月二十七日付を以て内閣總理大臣、各大臣及企畫院總裁に建議する所があつた、其の全文左の通り。

道路改良ニ關スル建議

近時道路改良ノ實績着々其ノ効ヲ奏セルモ交通上重要ノ位置ヲ占ムル路線系統ニシテ今猶自動車ノ運行ニ適セサルモノアリ例ヘハ

(イ) 廣島、吳、宇品間

(ロ) 小倉、久留米間

(ハ) 善通寺附近一帯

(ニ) 瀬戸町、名古屋港間

(ホ) 小郡、下關、防府附近

(ヘ) 名古屋、豊橋間

(ト) 大阪、和歌山間

等ノ如キ日々其ノ不便ヲ感スルノミナラス今次ノ時局ニ鑑ミ國防上ノ影響モ亦尠ナカラスト存セラレ候ニ付政府ハ急速其ノ完整ヲ期セラレ度此段及建議候也

昭和十二年十一月二十七日

日本交通協會會長 男爵 阪谷 芳郎

帝國自動車協會會長 男爵 阪谷 芳郎

道路改良會會長 水野鍊太郎

關係各大臣宛

自動車燃料資源擁護ニ關スル建議

時局ニ於ケル燃料資源擁護ノ意味ニ於テ政府當局ハ急速左記各項ニ就キ御詮議相成度此段及建議候也

(一) 一路線一營業主義ノ原則ヲ勵行シ自動車交通事業法

ニ依ル業者相互ノ競争及ヒ無駄ノ運行ヲ急速整理スル

コト

(二) 現時必要ノ程度少ナキ自動車路線運行ノ一部休止ヲ

認容スルコト

(三) 全國主要ノ各都市ニ自動車駐車場ヲ指定シ所謂圓タ

クノ流シヲ禁止スルコト

(四) 圓タクニハ必スタクシーメーターヲ取付ケシムルコ

ト

(五) ガソリン以外ノ燃料又ハ動力ヲ使用スル自動車ニ關

スル研究ヲ一層擴大促進スルコト

(六) 全國主要道路ヲ鋪裝シ自動車交通ノ圓滑ヲ圖ルト共

ニガソリンノ節約ニ資スルコト

昭和十二年十一月二十七日

日本交通協會會長

男爵

阪谷

芳郎

帝國自動車協會會長

男爵

阪谷

芳郎

道路改良會會長

水野鍊太郎

關係各大臣宛

◎道路愛護運動

本會に於ては夙に道路愛護事業の路政上緊要なることを認め各地方に於ける其の事業實施の情況は可成其の詳報を本誌上に於て紹介することに留意努力する所があつたが今回更らに國民精神總動員運動の一として其の普及徹底を企つることとなつて昨十二月六日北海道廳長官及各府縣知事に夫れ々々依頼した。(本號時論欄細田内務事務官の國民精神總動員運動としての道路愛護運動參照)

◎内務大臣の交迭

十二月十四日内務大臣馬場銑一氏は病氣の故を以て辭任し後任として内閣參議海軍大將正三位勳一等末次信正氏内務大臣に任ぜられた、其の新内相はワシントン軍縮會議及ロンドン會議に於て我海軍無力量問題で奮闘せられたことは世に周知の事である。其の略歴は次の通りである。

山口縣徳山出身五十八歲明治三十四年海軍少尉に任ぜられてから内閣參議に就任のため去る十月豫備役に編入され

るまで軍令部參謀、聯合艦隊參謀、第一潜水戰隊司令官、教育局長軍令部次長、舞鶴要港部司令官、第二艦隊司令長官の要職を経て聯合艦隊兼第一艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官の重職に就き、海國日本の護りの完璧に努め聯合艦隊司令長官在職中大將に親任された、後軍事參議官となり更らに現役を辭して内閣參議に任ぜられて今日に及んだ。

◎内務省土木試驗所談話會

十二月中に開催したる土木試驗所談話會に於ける話題は次の通りである。

第一六三同技術談話會話題

時 日 昭和十二年十二月十日(金) 午後二—四時

場 所 本郷區駒込富士前町二六内務省土木試驗所講堂

1、砂防堰堤に關する水理實驗裝置と二三の實驗結果に就て(二十分)

横 田 周 平

2、路面の縦横滑り摩擦係數の特性に就て(三十分)

島 田 技 師

3、セメントに關する最近の趨勢に就て(約一時間)

永井教授(東大、應用化學科)

以 上

〔附記〕 今年の技術談話會は之を以て最後とします。

◎全國鋪裝同業聯合會總會

昨年十一月二十四日午後五時より丸ノ内中央亭に於て全國鋪裝同業聯合會第二回總會を開き淺利會長の挨拶池野氏の事業報告並に議案の説明大島氏の決議報告及各方面の祝辭祝電の朗讀再び會長の閉會の辭ありて紀念撮影後晚餐の饗應ありて八時半散會せり議案決議は左の如し。

議 決

- 一、國防献金献納ノ件
- 二、官廳ノ工事直營廢止緩和請願ニ付具體的方法決定ノ件
- 三、工事諸材料(アスファルト、セメント、碎石等)ノ配給不圓濶ナルニ付夫々ノ同業團體ニ對シ聯合會ノ名ニ於テ善處要望ノ件
- 四、北支方面ニ鋪裝事業進出ニ當リ聯合會トシテ探ルベキ方法手段決定ノ件
- 五、事變ニ依リ鋪裝事業ノ打切、繰延、起債不許可、ニ對スル對策ヲ決議シ陳情スルノ件

決議

今や國家ノ非常時局ニ際會シ土木建築事業ハ資金物資ノ調整上全般的ニ抑制ヲ受クルノ止ムヲ得ザルニ到リタルモ道路鋪裝ノ專業タル物資輸送能力ノ増進ニヨリ産業ノ開發國防ノ強化ニ緊要缺クベカラザルモノタルト同時ニ一般土木建築事業ノ抑制ニヨリテ生ズル國內過剩ノ物資ヲ消化シテ銃後ノ國民經濟ニ活力ヲ與ヘ併セテ刻下ノ急務タル燃料消費ノ節約ニ資スルコト極メテ大ナルモノアリ茲ニ本會ハ非常時經濟ノ擴充ト燃料國策上ノ見地ヨリ鋪裝事業ノ積極的計畫ノ樹立トソノ實現ヲ期センガ爲所信ヲ具陳シテ當局ノ深甚ナル考慮ニ訴ヘントス。

昭和拾貳年拾壹月廿四日

全國鋪裝同業聯合會

◎滿洲土木研究會講習會開催

第三回土木講習會を滿洲土木研究會主催で一月中旬開催することとなつた其の趣意書及プログラムは左の通である

第三回土木講習會開催趣意書

吾滿洲土木研究會ハ創設以來既に二年有半全會員ノ絶ヘ

ザル奮闘ト努力トニヨリ會員數六百ニ垂ントシ毎月講演會ヲ開催シテ智識ノ交換ト相互ノ親睦ヲ圖ル外昨年五月以降會誌ヲ發行シテ會員ノ研究發表機關ヲラシムル等着々トシテ使命ノ貫徹ニ努メツ、アリ而シテ昨年一月及本年三月ノ二回ニ互リ道路講習會ヲ開催セルニ際シ全滿各地土木技術者各位ノ熱心ナル參加ヲ得テ豫期以上ノ効果ヲ收メ聊カ斯界ニ貢獻スルドロアリタルヲ信ジ將來本講習會ノ定期的開催ノ必要ヲ痛感シ本會ハ茲ニ再ビ各方面ノ協賛ヲ乞ヒ別紙プログラムノ通り第三回講習會ヲ開催スルニ決定セリ而シテ從來ノ講習内容ハ道路工學ニ重點ヲ置キタルモ今回ヨリハ其ノ内容ヲ廣ク土木工學一般ニ擴大スルコト、シ其ノ名稱ヲ土木講習會トセリ願クバ全滿土木技術者各位多數ノ參加ヲ得テ本講習ヲシテ益々有意義タラシメンコトヲ希望シテヤマズ

康徳四年拾壹月

滿洲土木研究會

第三回土木講習會プログラム

主催 滿洲土木研究會

月日 時間 二〇、〇〇—二、三〇 二、三〇—三、〇〇 三、〇〇—四、〇〇 四、〇〇—五、三〇 五、四〇—七、〇〇 備考

康徳五年 一月一九日(水) 會長 挨拶 滿洲國土木事業ノ將來

同 二〇日(木) 道路構造物ノ凍害 最近道路鋪裝ノ趨勢

〃 二一日(金) 河川ノ基本調査 朝鮮ノ河川

〃 二二日(土) 水力發電用堰堤 土木工用滿洲産木材ニ就テ

〃 二三日(日) 見學 (京吉國道ヲ經テ松花江ダム及吉林大同セメント會社見學)

北海道ノ道路 道路ノ設計

河川ノ氷害ニ就テ 混礙土施行法

奉天市ノ都邑計畫ニ就テ 最近セメントノ趨勢ニ就テ

遼河改修計畫ニ就テ 精神講話 閉會式 懇親會

○幹事會

踐化の提唱)

昭和十二年十二月十四日午後四時ヨリ一ツ橋學士會館ニ於

○土木學會誌(二三卷一二號)

テ幹事會開催、阿部、細田、近藤、谷口、和田、金子、藤井、小島ノ各幹事並ニ佐藤、大石各調査部委員出席、第八

(重松愿氏)偏心軸壓力を受くる鐵筋コンクリート對稱矩形斷面の算定表解法)

回國際道路會議道路展覽會出品ニ關スル件其他ニ就テハ協

○建設(二卷六號)

議シ午後八時散會

○駿工(一三卷一一號)

○近刊の圖書雜誌

○日立評論(二〇卷一二號)

○警察協會雜誌(十二月號)

○乘合自動車(一一卷一一號)

(猪俣敬次郎氏)日獨伊防共協定とその史的意義の實

○技術日本(一七九號)

○鐵道軌道經營資料 (二〇卷一一號)

○東大陸 (一二月號)

○三田學會雜誌 (三一卷一二號)

(加田哲二氏 民族・民族性・民族主義)

○法律時報 (九卷一二號)

○都市問題 (二五卷六號)

○石油時報 (一二月號)

○大大阪 (一三卷一三號)

(殿村繁三郎氏 煤煙防止に就て)

○水利と土木 (一〇卷一二號)

○自警 (一二月號)

○セメント界彙報 (三五七號 二月)

○科學知識 (一一、一二月號)

○電氣通信學會雜誌 (一七六號)

○公園綠地 (一一號)

○港灣 (一五卷一二號)

○工事畫報 (一三卷一二號)

○土木 (三八號)

(澤二郎氏 靜岡縣東部に於ける一里塚に就て、田代博雄氏 關戸橋、濟田三郎氏 鶴見の先史民族の遺物)

夕まけて藪の雀の鳴きひそみ

氷雨はいつか雪とかはりつ

武田 翠香

吹雪く夜を板谷峠を越す汽車の

山の街雪のアルプス暮れ残る

秋 紅

春ちかしとわがななめてし白梅の

ふふめる枝に雪つみにけり

潮 みどり